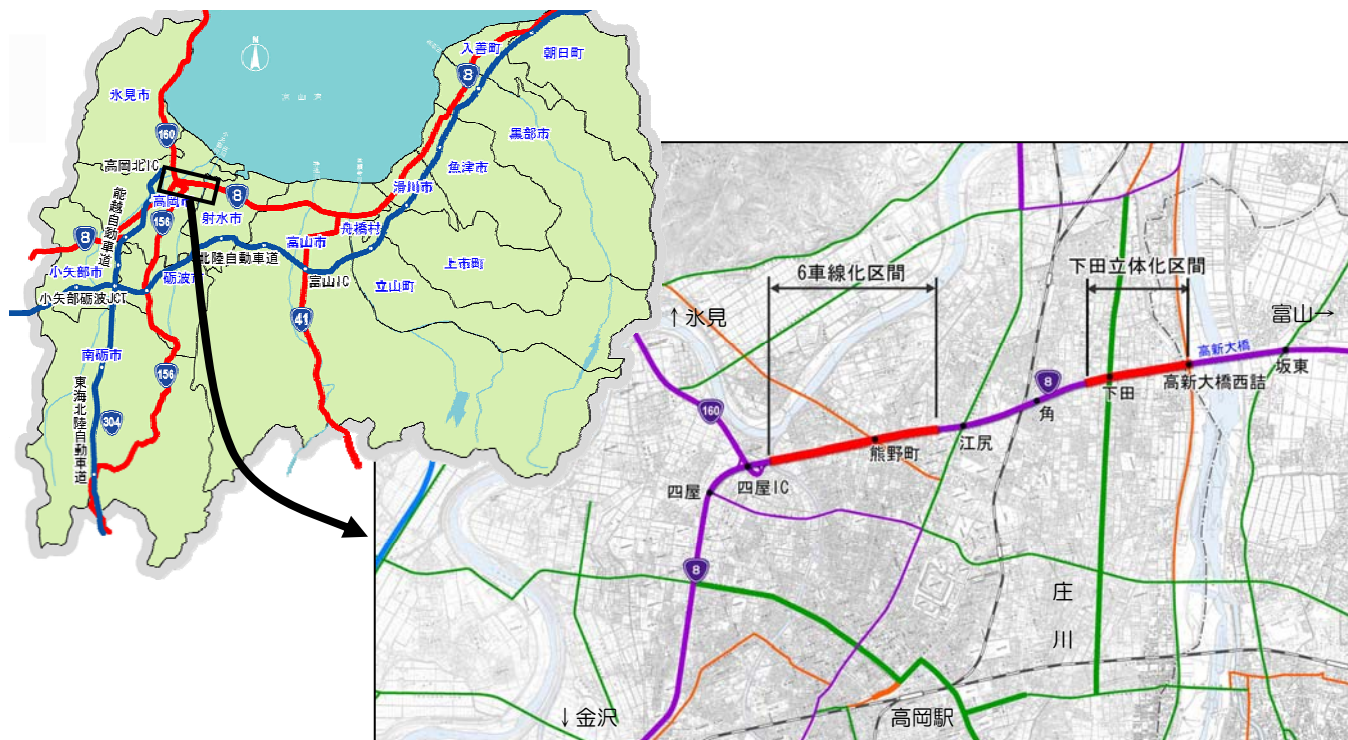


◆一般国道8号下田立体化、江尻～四屋間6車線化の概要



●下田立体化(高岡市石瀬～同野村 L=1.0km、H17年12月26日供用)



●江尻～四屋間6車線化(高岡市江尻～同四屋 L=1.1km、金沢方面H17年12月26日供用、富山方面H18年3月末供用)



◆整備効果把握のための調査

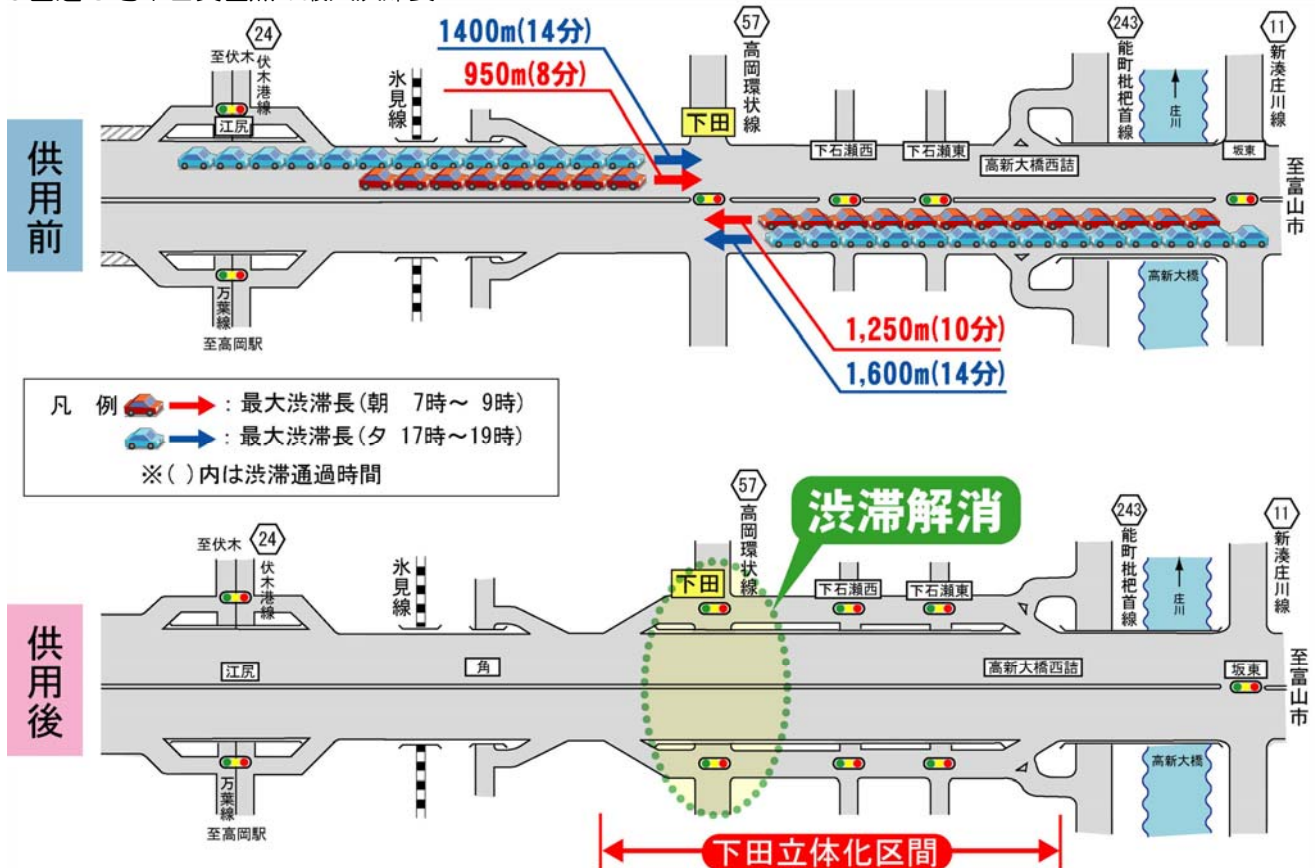
調査項目	調査日	把握内容
交通実態調査(平日)	供用前H17年12月 供用後H18年7月	・交通量・渋滞長・旅行速度などの交通状況の変化
アンケート・ヒアリング調査	H18年10月～11月	・国道8号利用者および企業の日常・経済活動の変化

整備効果

◆渋滞の解消と交通量負荷の軽減

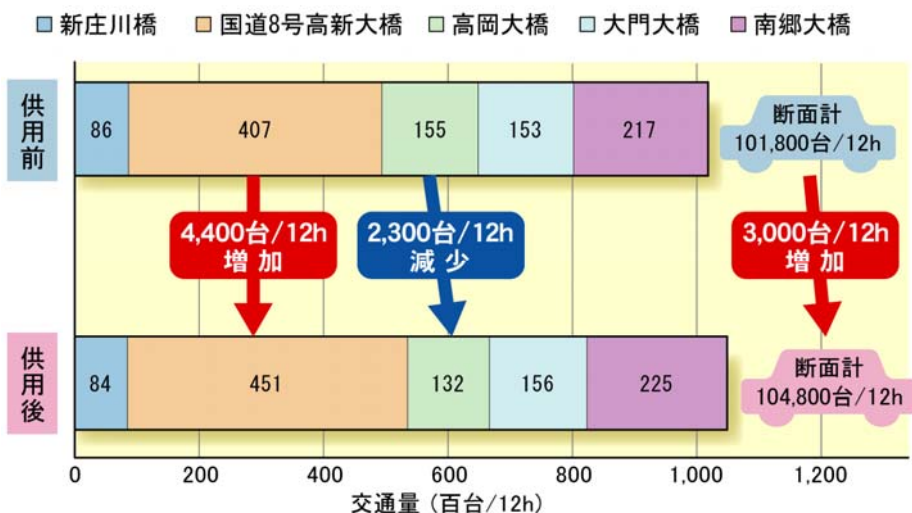
- ・国道8号では、交通量の増大に関わらず下田交差点の渋滞が解消
- ・国道8号に並行する他路線では交通量が減少し、交通負荷が軽減

●国道8号下田交差点の最大渋滞長



※供用前：H17年12月調査、供用後：H18年7月調査

●庄川河川断面の12時間交通量



※供用前：H17年12月調査、供用後：H18年7月調査

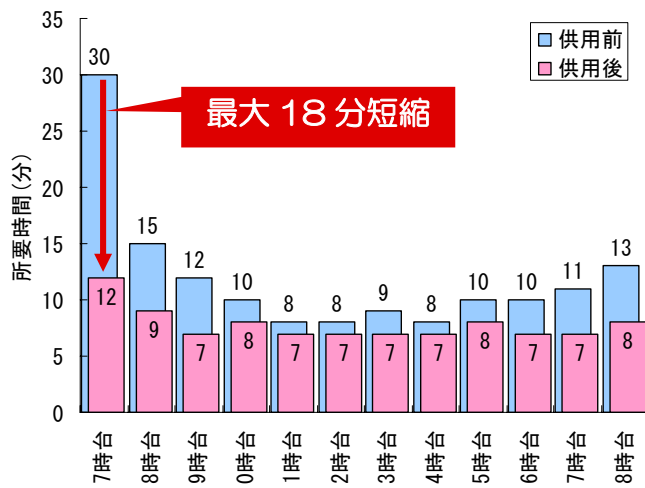


◆所要時間の短縮

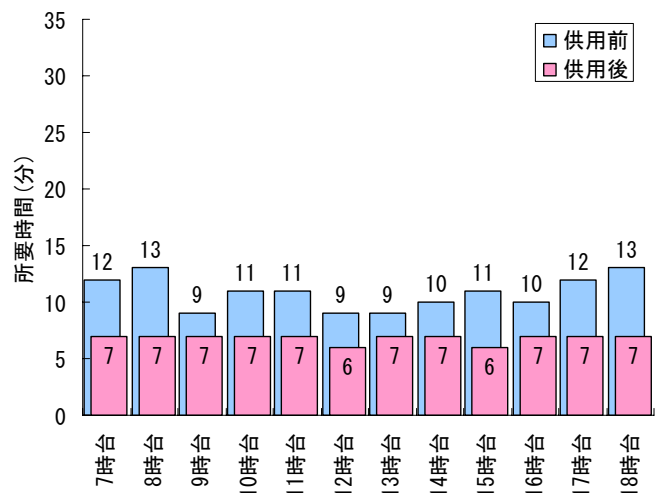
- ・ 四屋→坂東間で所要時間を最大 18 分短縮
- ・ 国道 8 号坂東～四屋の渋滞損失時間を 78%削減
- ・ 年間削減時間を金額換算すると、47 億円に相当

●坂東交差点～四屋交差点(L=5.1km) 所要時間

四屋→坂東

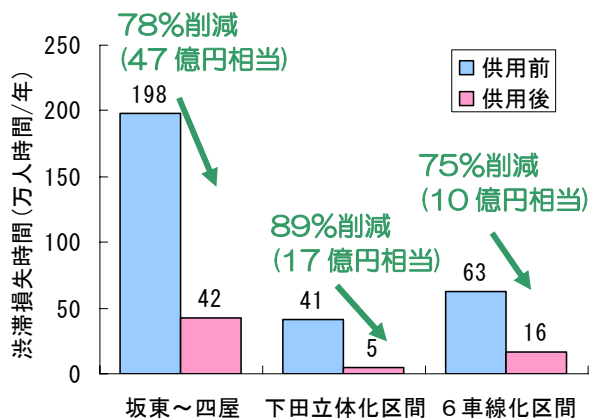


坂東→四屋



※供用前：H17 年 12 月調査、供用後：H18 年 7 月調査

●渋滞損失時間の削減効果



※供用前：H17 年 12 月調査、供用後：H18 年 7 月調査

※金額換算車種別時間価値を乗じて算定

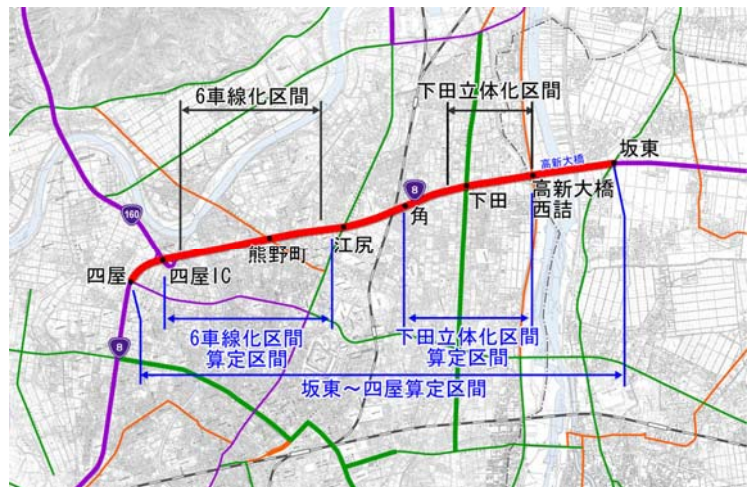
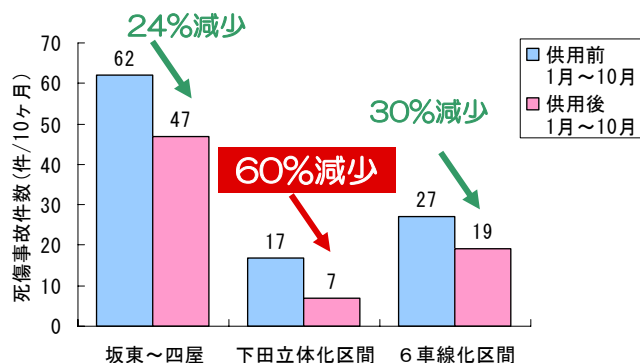


図. 算定区間

◆交通事故の減少

- ・ 坂東～四屋間の死傷事故件数を 24%削減
- ・ 特に下田立体化区間では 60%の削減と効果大

●死傷事故件数(1 月～10 月)

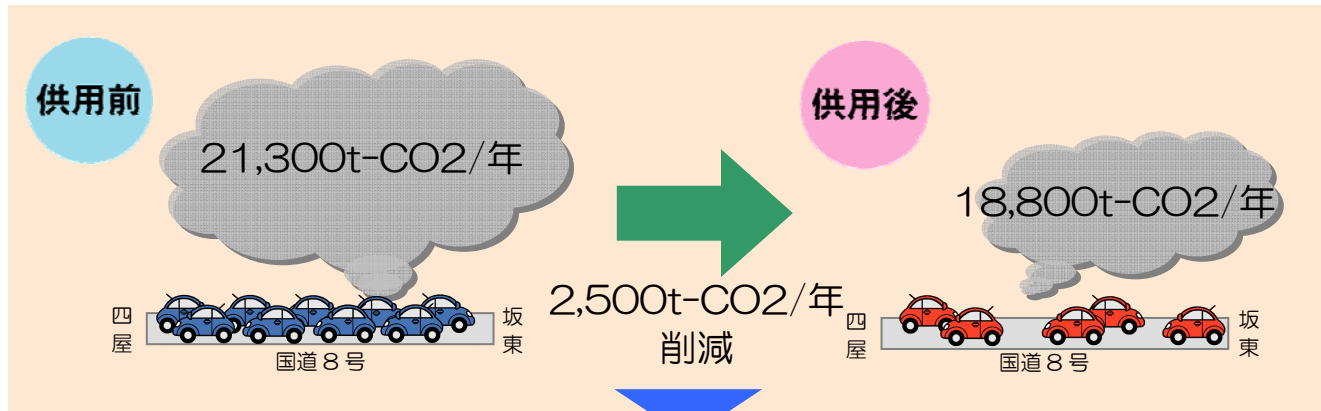


※資料：富山県警提供データ
 ※供用前：H16 年、H17 年平均
 供用後：H18 年

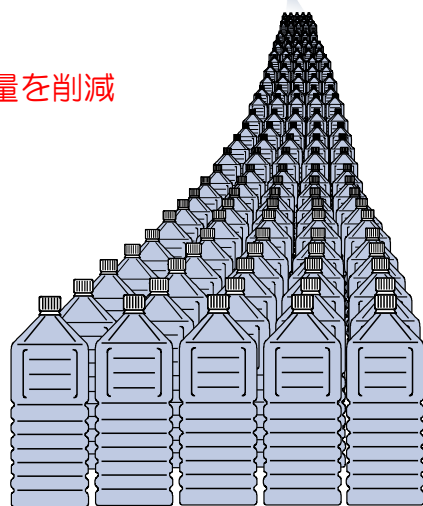
◆CO₂ 排出量の削減

- ・ 2 リットルペットボトル 6 億 4 千万本分の CO₂ を削減(削減重量 2500t-CO₂/年)
- ・ 削減量は高岡古城公園 5 個分のスギ林の年間吸収量に相当

●国道 8 号坂東～四屋間 年間自動車 CO₂ 排出量



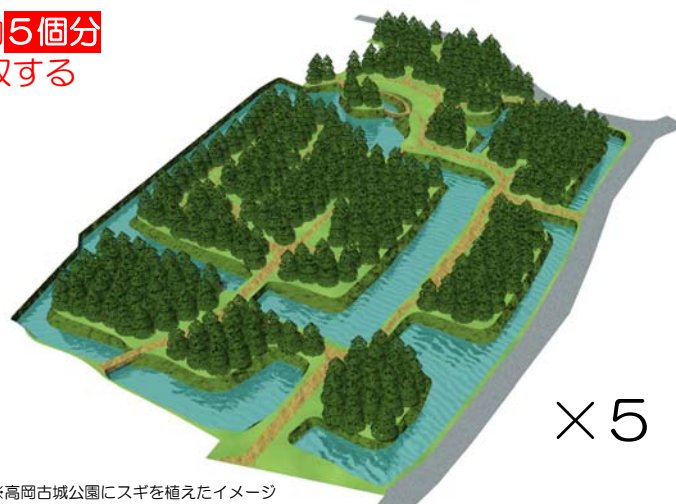
2 リットルペットボトル
6 億 4 千万本分の CO₂ 量を削減
(2,500t-CO₂/年削減)



※供用前：H17 年 12 月調査、供用後：H18 年 7 月調査
※CO₂(0 度、1 気圧) 1kg=509L

●森林創出効果

削減量は高岡古城公園約 5 個分
のスギ林が 1 年間に吸収する
CO₂ 量に相当



◆救急搬送時間の短縮

- ・新湊消防署から高次医療施設(高岡市内)への朝タピーク時間帯の所要時間が供用前に比べ3~4分短縮し、患者の搬送負担を軽減

●新湊消防署管内→高岡市内病院へのルート

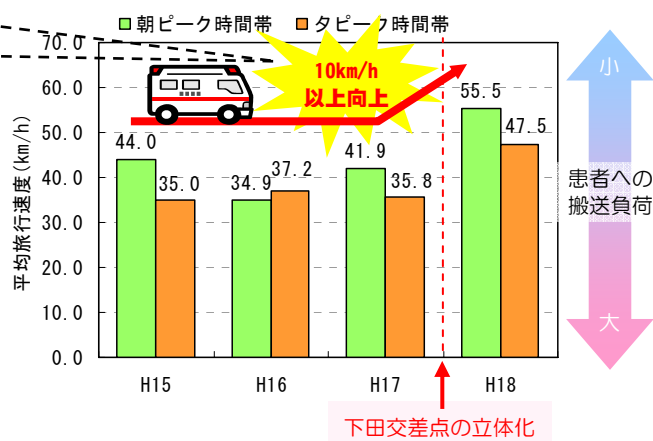
新湊消防署管内の年間出勤件数 870 件(H15~H17 年平均)のうち、190 件(22%)が下田立体化区間を利用。



●朝・タピーク時間帯における緊急搬送車の旅行速度(管内現場→高岡市内病院)

概ね 3~4 分程度の短縮
※射水市新湊地区から高岡市内病院への搬送距離：7~10km

※資料：新湊消防署
朝ピーク時間：7:00~9:00
タピーク時間：17:00~19:00



関係者の声

射水市消防本部

下田立体により、搬送時間が短縮しました。特に通勤時間帯に高岡市内へ搬送する場合、立体化前に比べ5分以上短縮されることもあります。平常時でも1~2分程度は短縮しています。また、以前は渋滞時にサイレンを吹鳴しても車が進路をふさいで交差点を通過できず、救急患者さんの様態が悪化しないか隊員や同乗の家族の方などが焦燥することがありましたが、現在はスムーズに通過でき立体化の効果を実感しています。



◆輸送効率向上による地域経済への波及効果

事例 1) 配送効率の向上により売上増加……………弁当配送業のH社(高岡市)

工場からの輸送時間が短縮し、配送可能件数が1台当たり5件増加したことから、営業努力により同じ配送台数で売上が約10%増加。

●お弁当を依頼者へ配送するまでの流れ

お弁当製造工場（富山工場）



●弁当の売り上げの推移

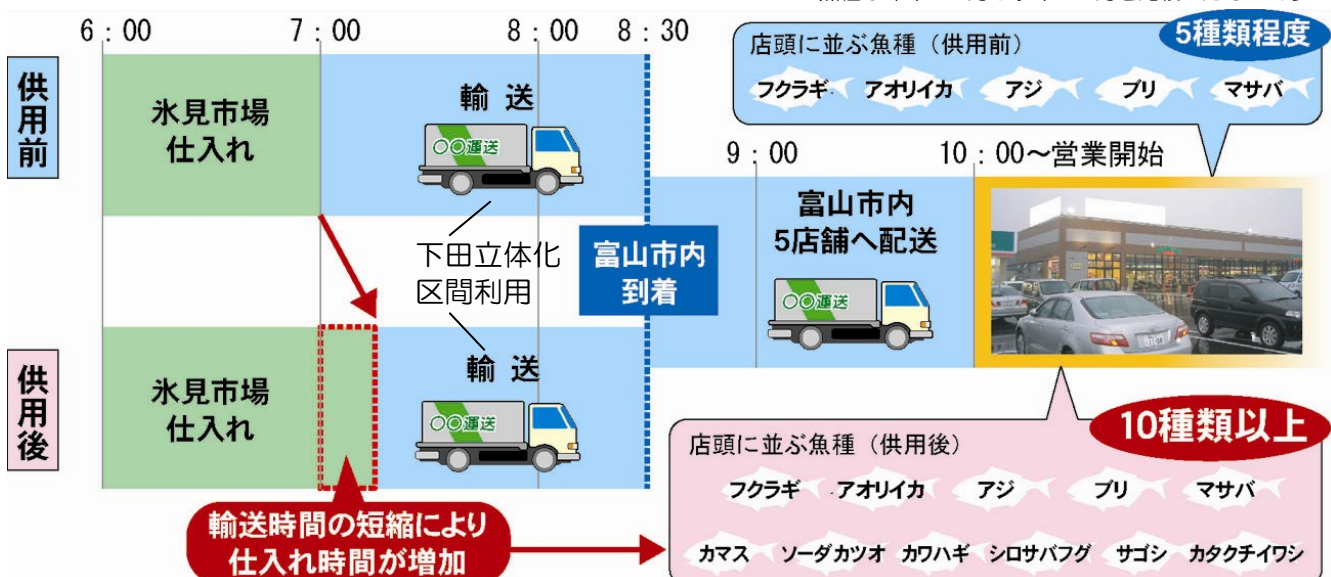


事例 2) 店頭に並ぶ魚が豊富に……………氷見産鮮魚を仕入れ・販売するA社(富山市)

氷見市場出発時間を遅らせることができ、仕入れ購入時間に余裕ができたため、販売鮮魚の種類が10種類以上に増加。

●富山市内店舗の開店前仕入れスケジュール

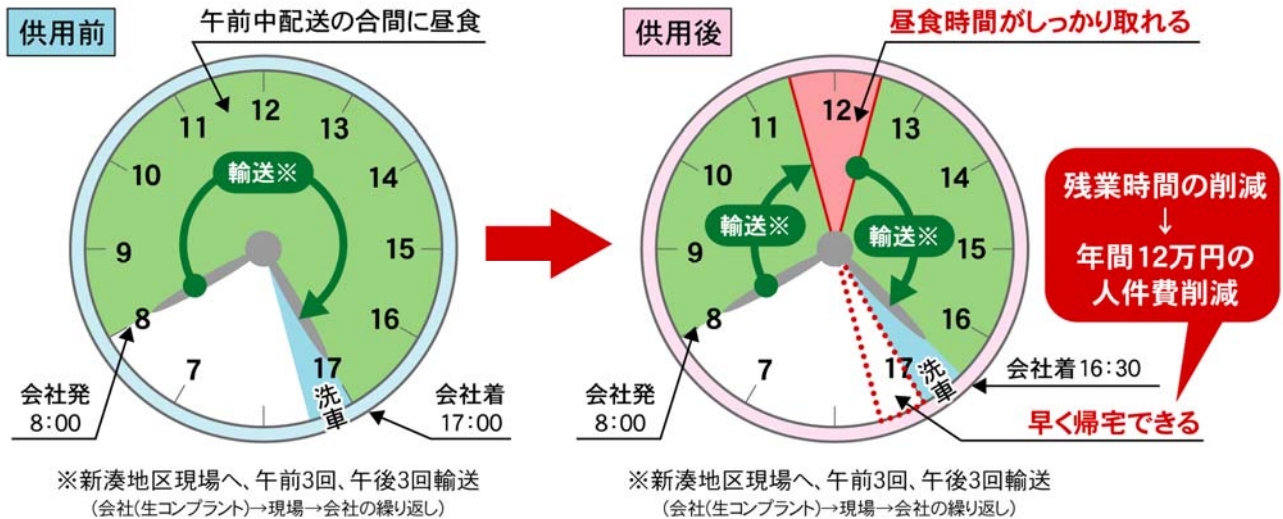
※魚種は昨年11月と今年11月を比較したものです



事例 3) 配送時間短縮により、残業時間を削減 ……生コンクリート配送業のT社(高岡市)

配送効率の向上により残業時間を削減でき、人件費を年間 12 万円削減

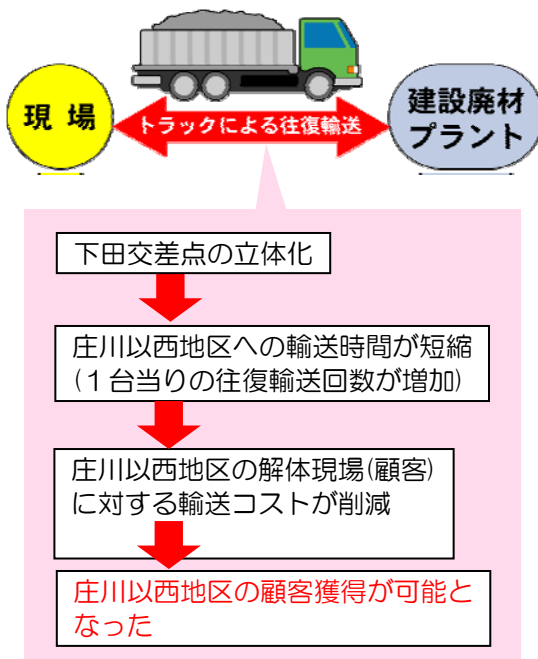
●射水市新湊地区現場へ生コンを配送する従業員の 1 日(下田立体化区間を利用した配送の場合)



事例 4) 輸送コスト削減により配送エリアを拡大…建設廃材中間処理業者のN社(射水市)

下田交差点立体化により輸送時間の短縮が図れ、1 台当たりの建設廃材運搬回数が増加し輸送コスト削減。これにより庄川以西の顧客獲得に成功し、配送業務エリアが拡大。

●建設廃材輸送の流れと顧客獲得の過程



●業務エリアの拡大状況

